

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301393		
法人名	有限会社インフィニット		
事業所名	グループホームむつ湊苑		
所在地	青森県八戸市湊町字上中道1-11		
自己評価作成日	令和6年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和6年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍以降、徐々にではありますが、ご利用者の希望に応じた介護支援の他、買い物・ドライブ・自宅・知人宅・故郷のお祭り等への外出、三社大祭・小学校の運動会・公民館祭り・地区敬老会等、地域との繋がりを大切にしております。 施設の予定等にご利用者の暮らしを当てはめるのではなく、今まで過ごしてきた当たり前の生活を実現できるよう、様々な面からご利用者の必要としている介護支援を提供できるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは段差解消や転倒防止対応の他、トイレやお風呂場ヘナースコールを設置する等、全職員がヒヤリハット改善策を検討し、利用者の安全確保に努めている。 また、訪問診療や訪問看護、訪問歯科等で利用者の健康管理の体制を整えている他、移動スーパーや訪問美容室等も利用できる環境となっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時、全員で理念を唱和し、再確認してから業務に入るようにしている。また、会議や勉強会等の場でも、理念に沿ったケアができているか検討している。	管理者及び職員は地域住民との交流を大切にしており、地域密着型サービスの役割等を理解している。ホームでは毎日、理念の一文をその日の目標に掲げる等、日々、理念を反映させたサービス提供に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、市場への買い物や近隣のスーパー、公民館の図書館の利用、地区運動会や地域行事にも参加している。また、町内会や地域の方にも、会議に出席していただいている。	ホームでは町内会に加入しており、町内の運動会に参加している他、公民館祭りでは利用者が作った作品の展示を見に出かける等、日頃から地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの入居申し込みや介護相談に応じている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、出席者の皆様に苑の運営状況・行事・取り組みの報告をし、その都度、違う議題で開催している。現在はコロナ感染が確認された時のみ、資料・報告書を送付している。	運営推進会議では、利用者の暮らしぶりやホームの運営状況等を報告している。また、毎回、感染症対策や避難訓練、認知症について等、テーマを決めて意見交換を行っており、メンバーから出された様々な意見を、ホームの運営やサービス向上に役立てていくように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へ自己評価・外部評価結果等を提出している。コロナ禍以降は、基本的にメールでのやり取りとなっている。	運営推進会議には高齢者支援センターの職員が毎回参加しており、意見やアドバイスをいただいている。また、行政とは日頃からメール等でやり取りをしており、利用者の課題解決に向けて連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを毎月確認し、ケアに取り組んでいる。玄関は施錠していないが、傾斜が急な階段で車通りが多く、踏切りが近くにある立地の関係上、ご利用者・ご家族にご説明の上、ユニットの出入口、エレベーターは施錠している。入居前に身体拘束防止の説明と同意を得る他、定期的に自施設での研修による周知徹底、発見時のマニュアルを確認し、身体拘束防止に努めている。	身体拘束に関する指針やマニュアル等を整備している他、定期的に委員会を開催している。また、身体拘束や虐待に関する研修を実施し、全職員が身体拘束による身体的・精神的弊害を理解できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会に参加し、具体的な事例等を学ぶ他、定期的に自施設での研修による周知徹底、ユニット内会議での事例検討、発見時のマニュアルを確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行い、参考資料をファイルに収め、必要な時に確認できるようにし、全職員の理解の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、基本理念を記した書類を交付し、契約書・重要事項説明書にて、サービスの内容等について十分に説明している。退居時でも利用者・ご家族が安心・納得できるような支援・説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階の意見箱への投書や不満・苦情があった時は、苦情処理簿に記入してもらう他、運営推進会議で取り組みの報告等をし、改善に取り組んでいる。	家族も運営推進会議のメンバーとなっており、外部に意見を出せる機会が確保されている。また、相談・苦情受付窓口を重要事項説明書に明記しており、意見や苦情が出された場合は、速やかに対応する体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送りの際に、運営者・管理者がスタッフと話し合う機会を設けている。必要時、管理者と職員個々に話し合っている。現在はコロナ感染予防のため、リモート会議や新たな会議手法も取り入れている。	毎月のユニット会議の他、必要時に管理者が個別に面談を行い、職員が意見を出せるようにしている。また、年1回、法人代表者と面談する機会もあり、職員がいつでも意見を言える機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、面談、実績を評価し、待遇面に反映させられるように努めている。また、ストレスを抱えていないか、普段から話を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会の年間計画を作成し、実施している。外部研修に参加した場合は報告・伝達研修を実施しており、報告書・資料を各ユニットに保管している。コロナ禍以降、苑内研修にリモート参加や動画での研修を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地区のグループホーム協議会の理事を務めており、研修会、総会、懇親会等を通して、他ホームとの交流の機会を作る等、徐々にではあるが、コロナ禍以前の状態に戻りつつある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談者の思いを十分に傾聴し、入居申込みがあった際は、ご本人と直接面談して、ニーズを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者の思いを十分に傾聴し、入居申込みがあった際は、ご本人と直接面談し、ニーズを把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みがあった際はご家族と面談し、十分に現状を聞き、ニーズを把握するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の思いに共感・重要し、ご利用者本人の暮らしを実現するうえで、できる事ややれる事を見極め、協力していただいたりと、一方的な支援にならないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時・電話・手紙にて、随時、ご利用者の 状態を報告・相談している。通院前後やケア プラン作成時の意向確認等、必ずご連絡 し、介護サービス計画アセスメント実施時の 意向確認をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や住んでいた地域、馴染みの人等との 付き合いを継続できるよう、連絡調整・付き 添い支援の他、電話でのやり取り等を行っ ている。	入居時のアセスメントや入居後に知り得た情 報を職員間で共有し、友人等との電話や手 紙のやり取りをお手伝いする等、利用者がこ れまで関わってきた人との交流を継続でき るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	できる事は行っていたき、ご利用者同士で 作業や家事ができるよう、また、関係性が築 けるよう、声かけや仲介する等の支援をして いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も介護のご相談を受けたり、納涼祭・ 花火大会等の苑行事に参加していただい ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	毎日「ご利用者の声」を記録し、日々のサー ビス・ケアプランに活かしている。そのため にも当たり前ではあるが、まずは話を聞くこ とを意識している。	利用者との普段の会話の中から把握した意 向や希望の言葉を記録に残し、職員間で共 有している。また、日々のケアを通じて、利 用者一人ひとりの顔色や表情、反応を見なが ら、意見や不満等を察するように心がけてい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	情報提供者や生活歴等を参考にしている。 面会時のご家族からの情報を基に、入居前 の生活の把握に努め、職員間で情報を共有 している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	生活習慣をできる限り変えないよう、施設の 生活時間に極力施設の時間に当てはめる のではなく、ご本人の生活リズムを把握し、 支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族から意向や要望と全職員の意見を出し合い、作成している。また、アセスメント、モニタリング、評価や見直し、ご利用者の状態変化時での見直しを行っている。	介護計画の作成にあたっては、可能な限り利用者の意見を聞くように努めている他、家族の面会時に今後の支援について意見や要望を確認している。また、ユニット会議で情報を共有し、全職員で話し合い、利用者本位の個別具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアプランの実施状況・スタッフの気づきやアイデア、ご利用者の声を個別に記録している他、特記事項は日誌や申し送りボードに記入し、全職員で共有してケアプランへ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制の導入や受診の送迎、外出支援を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に出展する作品作り等に取り組んでいる。町内会長には、運営推進会議の参加協力をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回、協力医療機関の医師による往診やご本人・ご家族の希望を尊重し、主治医を決定している。通院もご家族と連携し、付き添い支援をしている。	入居前の医療機関を継続して受診できるように支援している他、希望に応じて、協力医療機関の往診も利用できる体制となっている。また、受診結果はその都度家族に電話で連絡し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が月1回、訪問採血に来苑している。その他、医療連携を行っている訪問看護による体調管理や看取りの協力等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は必ず付き添い、病院関係者に情報提供をしている。また、入院中もご家族・病院と連絡を取り合い、早期退院に向けた支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明と話し合いを行っている。また、重度化した場合は、ご家族と共に主治医から、早期に病状の説明を受け、今後の生活について相談する機会を設けている。	利用者の重度化や終末期の対応について、入居時に文書で説明しており、ホームの方針を明確にしている。ホームでは利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族と連携を図りながら支援する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内外での定期的な心肺蘇生法・気道閉塞時の応急手当訓練を行っている。急変時対応マニュアルを、全スタッフが毎月確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難誘導訓練の他、夜勤者1名を想定し、ご利用者にも参加していただき、火災時の訓練を定期的に行っている。非常用の食料・物品等を備蓄している。	避難誘導マニュアルを整備している他、消防署立ち合いのもと、日中・夜間想定避難訓練を実施し、アドバイスを得ている。また、災害発生時に備え、食料品や飲料水、防寒具等を用意している他、停電時の非常用電源も整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前の生活習慣を変えなくても生活できるように支援することが、尊厳を守るケアに繋がると考え、支援している。記録類は職員休憩室にて施錠し、管理している。	ホームでは日頃から、個人情報の取り扱いについて、十分に配慮するように注意喚起をしている。利用者への声がけや対応について、気になることがあった時は、管理者がその都度注意している他、定期的に勉強会を実施し、改善に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促す場面を積極的に作り、ご本人の意思、表情を確認しながら声がけをして、ご利用者の意思で選択できるよう、支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画・週間予定表を基本としてあるが、ご利用者個々の希望や体調に応じて、日課を変更しながら、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みで着る服を選んでいただくために、声がけや支援をしている。また、行事では浴衣やお洒落な洋服を着用する等、支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや苦手な物を把握し、家庭的な献立となるようにしている。ご利用者にも一緒に作っていただいている。季節や行事の際もメニューにこだわり、提供をしている。	ホームでは栄養管理の委員会を設置しており、利用者の好き嫌いやこだわりを把握し、提供している。また、誕生日食や行事食も提供している他、移動スーパーや宅配パン等も利用できるように支援し、利用者が食事を楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録している。栄養管理委員会が毎月、おおよその摂取カロリーを計算し、メニューのバランス等について、会議で話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態や能力に応じて歯みがき支援をし、自力で行える方に関しても、自尊心に配慮して行っている。外部研修等で知識向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、できる限り失敗なくトイレで排泄できるように支援している。失禁時は羞恥心に配慮し、速やかに支援している。また、おむつ使用は極力避けるよう、プラン作成時等に検討している。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録し、パターンを把握して、事前誘導を行っている。また、排泄用品の変更等について、利用者の意向を確認しながら、職員会議等で話し合い、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、体を動かす、水分を勧める、トイレ誘導等、できる限り下剤に頼らないように取り組んでいる。必要に応じては医師・薬剤師に相談し、内服薬にて調整する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は午前中に行っているが、ご利用者の体調や意思に合わせ、日にちや時間を変更する等、できる限りご利用者の希望を聞いて支援している。その他、清潔だけを目的とするのではなく、入浴剤を日替わりで変えたり、入浴中もコミュニケーションを図り、安全且つ楽しんでいただけるように努めている。	入浴の順番や入浴方法等、できる限り利用者の意向を取り入れている。また、入浴中も浸かり過ぎに注意し、適宜声かけや水分補給を行い、利用者の羞恥心や負担感にも配慮して、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に縛られないよう、いつでも休めるようにしている。夜間も睡眠状況を把握し、不眠傾向の方には安易に薬剤に頼らず、生活全体を見直すように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量の一欄表を作り、確認している。飲み忘れや誤薬がないよう、チェック体制を何重にもする等、マニュアルにて厳重な確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理・片付け・余暇活動で、一人ひとりの力を活かした役割を持てるように支援している。トランプ・習字・買い物・ドライブ等で楽しみながら、気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護サービス計画へ外出支援を組み入れ、それ以外でも、毎週の買い物・ドライブ・地域行事等、できる限り外出の機会を多く持てるように支援している。	利用者の楽しみや気分転換を図れるよう、利用者の希望を取り入れながら、外出行事を計画している。また、利用者の身体状況等に合わせ、移動方法や移動距離、洋式トイレの有無等も考慮しながら、外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力や希望に応じて、職員の支援により自己管理したり、事務所で管理し、希望時に必要に応じていつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケアプランや要望に応じて、電話使用を支援することで、ご家族の声を聞き、安心されているご利用者の方もいる。コロナ禍以降は体調確認を行った上で、面会も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化委員会を中心に、ホーム内に季節を感じることができるような草花、木等を飾るようにしている。	ホールや廊下にはソファが置かれ、職員の作業音や声も騒がしくなく、家庭的な雰囲気の中、利用者がゆっくりと落ち着いて過ごせる環境となっている。また、手作りの作品や絵画を飾り、利用者が季節を感じられるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士、隣に座っていただけるように配慮している。他階のご利用者とも交流できるよう、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただけるよう、入居時等にご家族へ説明している。また、入居後の写真や手作り作品等を掲示し、居心地良く過ごせるようにしている。	入居時に、馴染みの物を持って来ていただくように働きかけており、家族写真や使い慣れたタンス等、様々な持ち込みがある。また、持ち込みが少ない場合は、手作りの作品を飾る等、利用者の生活状況に合わせ、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下に手摺りを設置し、全居室・トイレ等にナースコールを設置している。また、ベッド柵や必要のない手摺りは撤去している。		